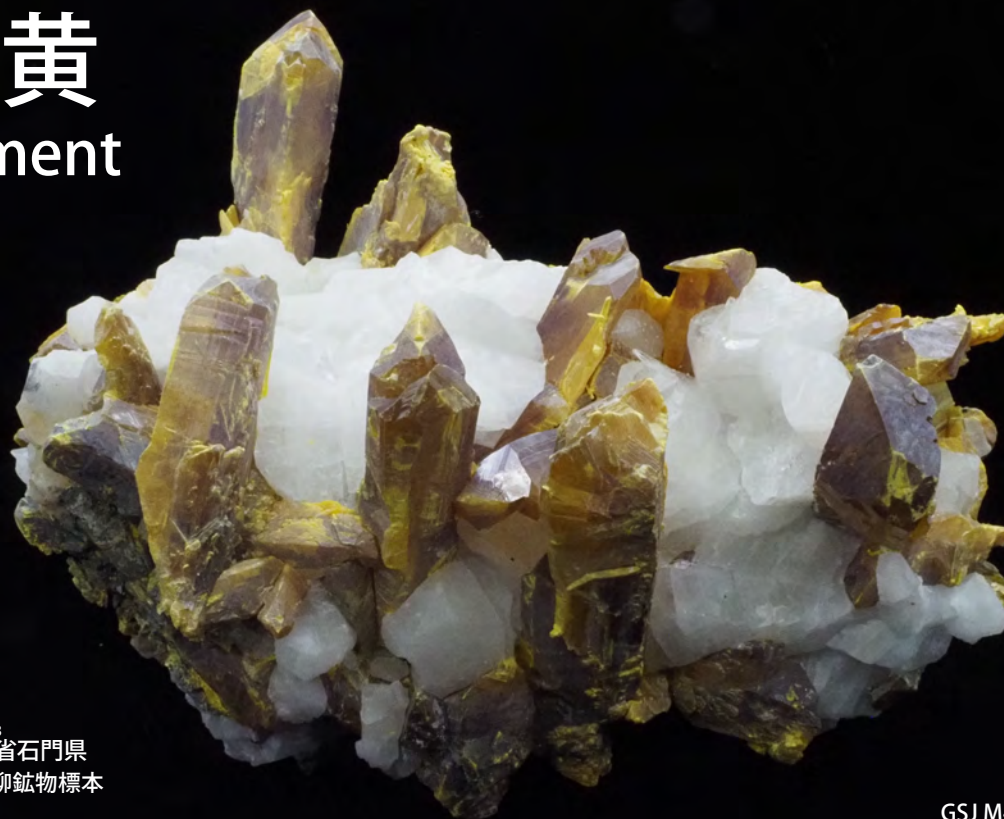


石黄 Orpiment



分類: 硫化鉱物
化学組成: As_2S_3
産地: 中国湖南省石門県
展示場所: 2F青柳鉱物標本
横幅: 約10cm

GSJ M40131

黄色く柱状になっている鉱物は石黄という鉱物です。英名はOrpimentといい、プリニウスの博物誌で“*auripigmentum* (黄金の顔料)”として紹介されていたことに由来します。古くから美しい黄色顔料として知られており、ティツィアーノやティントレット、ヴェロネーゼといったルネサンス期の画家は好んで使用していました。しかし硫化物であるため、特定の色と混ぜると化学反応で黒くなること、太陽光や溶剤の影響で脱色すること、そして人体に有害な砒素を有することなどから、だんだんと他の顔料にとって代わられていきました。

石黄の化学式は As_2S_3 で、よく似た鉱物に鶏冠石があり、その化学式は AsS です。石黄を表す言葉には雄黄、雌黄がありますが、文献によっては鶏冠石を指していることもあり、その表記揺れを探すのは楽しいものです。

例えば、中国の唐の時代に作られた「新修本草」第4巻において、石黄の名前は雄黄の項目に登場し、有毒ながら重要な経口薬として紹介されています。“良き者は鶏冠色を作し”、“石門に出でて石黄と名づく者、亦た是雄黄にして、通して黄食石と名づく。而れども石門なる者はもつとも劣る”とあり、この書では、雄黄を石黄と鶏冠石を含めた砒素硫化物の総称として用いていることがうかがえます。

また、正倉院にある卵型の雄黄は、経年劣化による脱色で黄色くなっていますが鶏冠石だと考えられており、こちらは手を温めるための薬品の一種として納められていたようです。

今ではあまり使われなくなった石黄ですが、鉱物標本は昔も今も美しい色と形を保っています。鮮やかで綺麗な黄金色を愉しんでいただけると幸いです。

(地質標本館室 瀬戸口希)